



9月は防災月間です。近年は、平成23年の東日本大震災や、令和元年東日本台風による水害などの自然災害により、鏡石町でも甚大な被害が発生しています。

災害時の被害を最小限に抑えるためには、これらの教訓を生かし、日頃から台風や地震などの災害についての知識を深めるとともに、一人ひとりの「備え」が大切です。

今月号では、特に台風や集中豪雨に伴う風水害への「備え」についてお知らせいたします。

過去の「教訓」を生かして 災害への「備え」を万全に

④ 事前の備えを

台風の接近や大雨などを事前に予想できる場合には、家の周りの点検や、ガラス・窓の補強などの対策を行いましょう。

また、停電や断水などに備えて懐中電灯の場所・電池残量の確認、浴槽に水を張っておくなどの準備をしましょう。



⑤ 早めの避難を心がけて

河川の氾濫など水害の恐れがある場合には、浸水想定区域内の住民の方々は町からの避難情報に注意し、早めの避難を心がけ、明るい安全なうちに行動を始めましょう。

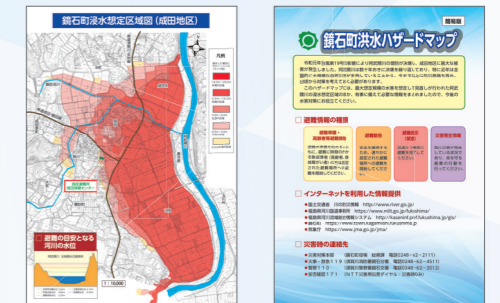
浸水想定区域外の方は、不要不急な外出を控え、屋外での作業等は中止して屋内に避難しましょう。特に河川や水路、水田の見回りなどは絶対にやめましょう。



① 事前の確認

日頃から洪水ハザードマップや防災マップを確認し、危険箇所や避難所について確認しましょう。

鏡石町の洪水ハザードマップでは、阿武隈川周辺を浸水想定区域として公表しています。また、土砂災害警戒区域や火山噴火、津波等の危険箇所指定されている場所はありません。



【鏡石町洪水ハザードマップ】

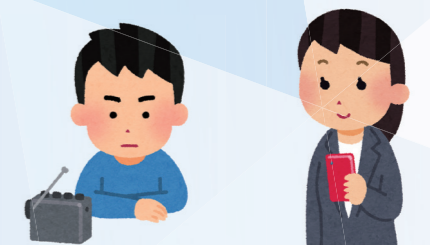
② 日頃からのコミュニケーション

日頃から近隣住民の方とあいさつなどのコミュニケーションを図りましょう。避難の際の声掛けや、安否確認など、災害時の助け合いにつながります。



③ 情報収集に努める

近年は気象予報の技術が向上しており、早い段階で精度の高い予報を知ることができるようになっています。台風や大雨の気象情報ははじめ、警報発令、河川の水位など早めの情報収集に努めましょう。テレビやラジオのほか、インターネットを活用することでより詳細な情報を得ることができます。



道路の冠水、アンダーパスの増水にご注意ください！

近年は、想定を大幅に上回る大雨や集中豪雨が頻繁に発生しています。その場合、舗装や排水整備がされている街中でも、その処理能力を超えて排水路から水があふれ、道路を覆い尽くしてしまうことがあります。

一般的な車が走行可能とされている水深は、ドアの下端程度までと言われています。エンジンの内部に水が入ってしまうとほとんどの場合、致命的な故障を起こしてしまうため、冠水した道路に無理に侵入することは避けましょう。

特に高速道路との立体交差にあるアンダーパスは、道路の中でもさらに低くなっているため、車がはまって立ち往生する危険があります。



令和元年台風第19号による大雨で冠水した後の桜岡地内のアンダーパス

● 問い合わせ先 総務課 ☎ 62-2111

インターネットを利用した情報提供（QRコード）

<p>国土交通省 川の防災情報</p>  <p>http://www.river.go.jp/</p>	<p>福島県河川国道事務所</p>  <p>https://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/</p>	<p>福島県河川流域 総合情報システム</p>  <p>http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/</p>	<p>鏡石町</p>  <p>https://www.town.kagamiishi.fukushima.jp</p>	<p>気象庁</p>  <p>http://www.jma.go.jp/jma/</p>
--	--	--	---	---